



元気おおとよ新聞

2025年春号

令和7年4月1日発行 NO.49

一緒に考えよう 大豊町のこれからの暮らしについて

「お山のミライ会議 Vol.1」 報告特集

2/8(土) ふれあいセンター3階大ホールにて開催されたイベントにて、トークゲストや会場にお越しくださった町民の皆様からのご意見をまとめました。



あなたが感じる、大豊町の魅力・誇り・資源は何だと思いますか？

1000年以上続く集落には、たくましく生きる元気なおんちゃん・おばちゃんを守ってくれた棚田や畑、文化・風習など、かけがえのない無形文化財が残っている

自然を身近に感じながら子育てができる環境とそれに対する手厚い支援がある

町外への交通手段(JR、高速バス、車、飛行機)が多く、都市部からアクセスがしやすい

無農薬の新鮮な野菜が、身近に手に入る

全国に名をはせる程の激流アクティビティと、地元の人しか知らない秘境スポットのギャップが面白い

豊かな自然と先祖が残してくれた植林は、水や土を育み、CO2削減にも貢献していて、人間や動植物が暮らすために必要な全てがそろっている「なんでもある町」だ



大豊町に「足りないもの」や「もっとこうなったらいいな」は何ですか？

足りないものは特になく、むしろ現状を維持して幸せな暮らしを守りたい

若者が生業にできる自伐型林業の仕組みを作り、森を守っていく必要がある

ふるさと納税の返礼品を工夫してはどうか？例えば、民泊体験ツアーや魅力的な素材をうまく使って、交流人口拡大からUターンにつなぐ

交流イベントや住民が気軽に集まれる交流の場がもっとあればいい

職業の選択肢が少ない新しい産業(観光業など)に真剣に取り組む必要がある

今ある産業を絶やさない事業承継を推進する

集落維持人が減り、草が生えて家が朽ち果てていくのを防ぎたい



過疎高齢化が進む中、どのような対策をすれば、集落維持が可能だと思いますか？

働く場所は(車で通勤できる範囲)南国市や高知市で、生活は大豊町という、ベッタウン化を考える

地域内交通を改善し、車のない高齢者が移動できる手段を考える
中・高校生の通学にも大きく影響しているため、ライドシェアなど早急に対策を

シェアオフィスやリモートワークの魅力をPRし、都市部の若者の移住を促進する

若い人たちが、子どもを生み・育て・暮らしていきたいと思える環境、地域づくり

集落の主な行事(道役、神祭)に住民や集落出身者が、できる限り参加し続ける

田舎暮らし体験や住み込み体験プログラムを実施する

(行政内に集落維持に特化した課を作る、というアイデアもあり)



あなたが、町の未来に残したいと思うものは何ですか？

豊かな自然
(山・川・星空・動植物)、森林、水資源、静かな環境

山の暮らし方
(農林業、川漁、狩猟など) + 新しい生業

文化(食文化)・風習(祀り事、祭り、暮らしの知恵)

集落ごとの特徴はそのまま残したい

町外に出ても、また戻ってきたいと思わせる町

その実現のためには、どのようなことが必要だと思いますか？

個人が、それぞれの考えや意見を話し合える場、コミュニケーションの場

自分たちの町の未来を、官民一緒に考える仕組み

自然保護、景観の維持、使用されていない土地や家屋の活用

ある程度の不便さを
楽しめる
「心のゆとり」

町外に出た時に役に立つ教育、幼少期の経験



お山のミライ会議 VOL.2 開催決定



2025年4月26日(土) 14:00開場



ふれあいセンター 3階大ホール

第1部 14:30~15:45

自然エネルギーの自給について

合同会社クールアイランド 代表

NPO法人 大月地域資源活用協議会 副会長

水と森と未来 代表

ひらい まさし
平井 政志 氏

第2部 16:00~17:30

(仮称)嶺北香美ウインドファーム事業計画説明

株式会社CF 執行役員

すえひさ はる たけ
陶久 晴岳 氏

Zoom配信もあります。
参加ご希望の方は
お問い合わせください。

特定非営利活動法人 元気おおとよ

元気おおとよは、大豊を元気にする民間団体です。
移住促進／地域交流／集落維持などに取り組んでいます。



080-8635-2253



<https://genki-otoyo.org/>



〒789-0250

大豊町黒石363-5(大田口テラス1階)